

愛媛県立図書館におけるレファレンスの実情

— 郷土資料を中心として —

古茂田 進 雄

当館は明治36年10月に開館以来、俳句関係資料を含め、特に最近、郷土資料の網羅的収集に積極的に取り組んでいる。

また、私の担当しているレファレンス業務においても、郷土史に関係するものが業務の中心を占めているといっても過言ではない。

そこで、郷土資料の主なる資料群について説明する。資料群は大きく次の6つに分けられる。

- ① 一般郷土資料
- ② 伊予史談会文庫資料
- ③ 伊予俳諧文庫資料
- ④ 伊予八幡土地関係資料
- ⑤ 愛媛県行政文書資料
- ⑥ その他諸家文書・文庫資料

以上の6つである。

① 一般郷土資料について

新聞切り抜き資料・各種パンフレット等を含め、図書館重点目標としてその収集に取り組んでいる。特にある分野だけのものを収集するというのではなく、すべての分野で網羅的に収集している。昭和53年度末で約8千冊の資料が所蔵されている。

書誌として、「愛媛県立図書館蔵書目録 第1巻郷土資料編」を冊子で作成し、参考調査活動の第一の手がかりとしている。後「調査・相談の質問に対する回答事例集」という小冊子を発行している。これは当館におけるレファレンス・サービス事例を収集したもので、巻末に質問の件名索引をつけて検索に役立つようにしている。

② 伊予史談会文庫資料について

伊予史談会は、大正3年に創立され、以来60余年間、地方資料の収集、文化財の調査、郷土偉人の業績顕彰など、地方史の研究に努力を続けてきた団体で、絵地図を含め約7千点に及ぶ資料を所蔵している。この文庫には、原資料である古文書もあるけれども、神社・仏閣・旧家等における史料の筆写されたものが最も多い。太平洋戦争によって、県内の主要都市が戦災を受けたため、原資料が焼失した今日、この文庫資料が唯一の資料となっていて、この意味からもこの文庫資料は貴重な資料となっている。当館では、これらの資料を寄託資料として、一般閲覧に使用している。

書誌として、「伊予史談会文庫目録」を冊子で作成している。これは書名によ

る仮名五十音順になっている。また、伊予史談会では年に4回「伊予史談」という雑誌を発行しており、現在まで233号出版されている。書誌として第1号～第200号までの「伊予史談主要論文総目録」を小冊子で作成している。これは、“原始・考古”“古代”“封建前期・後期”と時代順に並べ、それから“伝記”“美術”“地誌”“民俗”と大きく分野別に分け、検索したい記事が何号に掲載されているのか調べる上で活用されている。後、当館では「伊予史談」の雑誌記事の件名を五十音順に分けて、カードによるレファレンス・ツールを作成している。このようにして、口答・電話などの郷土史関係のレファレンスについては、まず「伊予史談」に掲載されているかどうかで、調査の手がかりとしている。

③ 伊予俳諧文庫資料について

愛媛県は、俳諧の聖地として、全国的に有名であるが、昭和18年に高浜虚子を会長として、「俳諧文庫会」が設立され、以来各方面から俳書の収集にあたり、年ごとに充実してきた。そして、昭和44年にこれまでの資料を本格的に整理し、別に当館の所蔵する俳書をあわせて、「伊予俳諧文庫」を起こした。資料数約3千点と少ないが、次に記述する「虚子文庫」とあわせて運用している。

「虚子文庫」は、高浜虚子が生前、俳諧文庫の充実のため、自分の蔵書は伊予に送ると言っていたのを、家族の方が継承され、「伊予俳諧文庫」に寄贈されたものである。総部数は、2,573部3,993冊であり、56%が俳諧資料、残りが郷土資料と一般図書である。この文庫の特色としては、虚子の著作はもとより、門下

俳人の作品を中心に多数の句集があること、また和書の中には虚子が修学期に学んだ漢籍と価値ある郷土資料が多いことが挙げられる。

書誌として、「伊予俳諧文庫目録」「虚子文庫目録」が冊子体で作成されている。これは、NDCに基づく愛媛県立図書館独自の分類によって整理し、作成したものである。併わせて、俳書・俳人を検索するための五十音順によるカードのレファレンス・ツールを作成している。

俳諧関係のレファレンスにおいて、最初の手がかりとして使われる参考図書としては「伊予俳人録」「伊予の俳諧」「伊予俳諧史」などが挙げられる。

④ 伊予八藩土地関係資料について

伊予八藩土地関係資料は、天正19年より明治21年に至るまでの畝順帳・地価帳等の土地制度に関する公文書で、愛媛県が旧藩庁や天領の代官所から引きついだもの、石鉄県・神山県より引きついだもの、および明治36年以降の地租改正に関するものである。これらの諸史料は、本県における地租改正を中心とする土地問題に関する本格的な研究や各市町村史の編さん等の重要資料として活用されている。

書誌として、「伊予八藩土地関係資料目録」を冊子体で作成し、また県内の各地域別に配列したカードのレファレンス・ツールも併わせて活用している。

⑤ 愛媛県行政文書資料について

藩政期・明治期における約4,130冊にわたる行政資料。「愛媛県布達類」「各市町村関係書類」「学務書類」など、市町

村史・校史などの重要資料として利用されている。

書誌として、「愛媛県行政資料目録」を冊子体で作成している。この目録の編成は、愛媛県立図書館行政文書分類表に基づく分類で、同一分類内は項目別に配列した目録である。

⑥ その他諸家文書資料について

寄贈および寄託資料として、昭和54年7月現在24家の文書がある。主に庄屋文書・手紙などの私文書である。各町村史編さんおよび古文書解読等に利用されている。

これらの文書資料の中で、マイクロ・

フィルム化した「根元」という西条藩士の各事跡を記録化した非常に貴重な資料も含まれている。

書誌として、各家の文書目録を冊子体で作成している。分類はまず、中世・近世・近代の時代区分で先行させ、続いて主題区分している。

以上、郷土資料の主なる資料群について説明してきたが、私としてはまだまだ力不足を痛感している。今後はもっとレファレンス業務における重要なツール作成に励み、充実したものになりたいと考えている。

(こもだ・しんお 愛媛県立図書館)

